

# エコ〜つうしん

第17号

平成22年(2010)1月14日 編集発行：出雲市役所環境保全課 (TEL21-6535 FAX21-6597)

環境新聞「エコ〜つうしん」第17号です。

いよいよ、冬本番、寒さが厳しくなってきました。

最近、燃料代や電気料金の値上がりのせいか、若い女性の間で「湯たんぽ」が流行しているそうです。

国内での湯たんぽの起源は諸説ありますが、ある説によると室町時代に中国から伝わったそうです。初めは陶器製であったものが、近代になると銅製や真ちゅう製など丈夫で軽いものが作られ始めました。

近年では、プラスチックやゴムなどさまざまな素材で作られている上に、見た目と用途も重視されていて、従来の「湯たんぽ」のカバーが「ぬいぐるみ」になったものや湯たんぽ自体がブーツ型になっていて、すっぽりと足を入れるものもあるようです。

低温やけどには注意しないといけません、昔ながらのものを見直してみると、意外と快適に「暖」が取れるかもしれませんね。



## 環境特派員レポート

### エコブリス

(出商デパート)

11月28、29日の両日、出雲商業高校で生徒の学習活動の一環として「出商デパート」が開催され、今年はエコブリスを拡充し、廃油を使ったキャンドルや石鹸などを作って販売していました。

去年からエコ活動に取り組み、資源節約の観点からエコバッグ作り、今年の使用済み食用油を使いキャンドルや石鹸を製品化し販売しました。

捨てられる資源を再利用することと身近にできることを考える取り組みです。

この活動を通して学んだことは、「再利用も大切だが、人や環境に負担をかけない暮らし方が大事ということ。また、石鹸作りは「ミニセンター」でも同様の活動をしておられたので、地域の方との交流も考えながら取り組みました。また、廃油キャンドルは若い人にも興味を持ってもらえるよう工夫しました。」と三原実行委員長。

エコや環境問題について、「身近なところできることがたくさんある」と思いました。廃油の回収に



出商デパートの様子

ついでに全校生徒挙げて取り組み、多くの生徒とその家族が協力してくれました。このことから生徒や地域の方などと一緒に取り組みすることも大切なことと感じました。

エコと簡単に言葉だけで言わないで、その意味を考えながら取り組むことが大切です。学校の教室に以前は大きなゴミ箱が置いてありましたが、今では小さなゴミ箱しかありません。自分が持ち込んだゴミは自分で持ち帰るという取り組みをしており、まず、「ゴミを出さないことを自分でする。」このような活動を今後も続けていきたいと思えます。」と販売担当の1年生は力強く語ってくれました。(坂本特派員)

### 割り箸一膳のリサイクル

現在、日本では年間約250億膳(木造住宅2万件分)、

一人当たり約200膳もの割り箸を消費しています。

その原料のうち97%が輸入、さらに輸入量の99%が中国産であり、そのほとんどを輸入に頼っています。ちなみに日本は国土の68%が森林ですが、中国は17%しかありません。

ところで、先日、出雲市ごみ減量アドバイザーの大地地区委員である石原吉枝さん、今岡愛子さん、原美知子さんの呼びかけにより、大地地区の全てのミニセンターに使用済み割り箸の回収箱を設置されました。

「割り箸一膳のリサイクル」と小さな活動ですが、この活動から、森林や環境、生態系の破壊、地球温暖化を止める一歩につながればと思います。(村上特派員)



割り箸回収ボックス

## 超簡単!なのにおしゃれな「古新聞で作るエコバッグ」

古新聞って、包装に使うか掃除に使うか、古紙回収に持っていくものばかり思っていました。

が、「古新聞で作るエコバッグ」、これが結構丈夫でおしゃれなんです。あまりにも簡単にできるので紹介します。

**材料** 古新聞、のり、お菓子などの空き箱

- 作り方**
1. 古新聞2枚の端(3箇所、袋上部を除く)を接着し、空き箱を筒状にくるむ。
  2. キャラメル包みの要領で底を作って接着し、乾いてから箱を抜く。
  3. 取っ手を作る。新聞紙を半分に切って丸め、端を接着する。(長さは、袋の大きさによって調節)
  4. 袋の上部に取っ手を入れ、新聞で挟み込むように接着する。

どうです? 簡単でしょう? 紙なので水気には弱いですが、丈夫です。きれいな写真の紙面や、英字新聞などを使うと新聞で作ったようには見えませんよ。寒い時にコタツにはまって作ってみてください。(今岡特派員)



### エコ〜な本の紹介です

「江戸のへんから学ばない」  
「もったいない」第2巻  
「快適に過す工夫」

文/秋山浩子 絵/伊藤まきあき  
発行/汐文社

現代人の兄妹が江戸時代にタイムスリップ。当り前のようにモノを消費する現在に対して、江戸の人はいかに最小限のものを使って快適で無駄なく過ごしていたかを、マンガと解説を通して面白く教えられる本です。



(山崎特派員)

## 事業系ごみの分別の徹底と減量化にご協力ください!

事業活動に伴って生じる廃棄物(事業系ごみ)については、『事業系一般廃棄物』と『産業廃棄物』に分類され(下図参照)、法律や市の条例によって、事業者には「自己処理」が義務付けられ、合わせて「ゴミの減量化」に努めなければならないと定めています。

市では、ごみの減量化、資源化を推進しています。

各事業所においても、ごみの分別の徹底と減量化、リサイクルの推進にご協力ください。

詳しくは、資源リサイクル課(☎21-6988)までお問い合わせください。

